地震一口メモ No. 107

長期評価による地震発生確率値の見方

（1 月 15 日の地震発生確率の更新について）

地震調査研究推進本部にある地震調査委員会では津波や強震動モデルの検討などを行なっていますが、テレビや新聞などで見かける今後 30 年で地震の発生する確率は○○%という長期的評価も行なっています。その地震の発生確率は毎年 1 月 1 日現在を基準として再計算した値に更新しており、今年の 1 月 15 日にその結果が公表されています。

今回と前年の結果を比較すると大阪に関係するものとして以下のようなものがあります。

Ⅰ．内陸の活断層で発生する地震の発生確率値の更新前後の比較
（算定基準日　平成 26 年（2014 年）1 月 1 日）

	2013年1月1日時点の評価	2014年1月1日時点の評価
山崎（主部／南東部）		
100年	0.002%-0.04%	0.002%-0.05%
大阪湾		
50年	0.007%以下	0.008%以下

山崎断層（主部/南東部）	
活動間隔	3900年
経過率	0.4
30年	0-0.01%
50年	0-0.02%
100年	0.002-0.05%
300年	0.03-0.3%

山崎断層は最後の活動からまだ半分の期間も経過していません⇒発生確率は低い表現になっています。

Ⅱ．海溝型地震の発生確率値の更新前後の比較
（算定基準日　平成 26 年（2014 年）1 月 1 日）

南海トラフ	2013年1月1日時点の評価	2014年1月1日時点の評価
平均発生間隔	88.2年	
ばらつきα	0.20-0.24	
経過率	0.76	0.77
10年	20%程度	20%程度
20年	40%-50%	50%程度
30年	60%-70%	70%程度
40年	80%程度	80%-90%
50年	90%程度	90%程度
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上

南海トラフは平均発生間隔88.2 年に対し最後の活動から67 年経過しています
⇒発生確率は高い値で表現

発生間隔が大きく異なるので、確率を直接比較することは出来ません

地震調査研究推進本部 HP　長期評価による地震発生確率値の更新について
http://www.jishin.go.jp/main/chousa/14jan_kakuritsu/index.htm

ポイント
○過去の活動履歴がはっきりしない部分もあるため確率に幅のある表現になっています
○内陸の活断層と海溝型地震で活動周期が大きく異なるため、単純な値の比較は出来ませんが、同じ種類の地震ならば相対的に地震が発生しやすいなどと比較することは可能です
○確率の小さな変動はあまり気にせず、おおまかな傾向をつかむとよいです
○単純に考えるなら経過率が 1 に近い（超える）ほど起こりやすいと言えます
○あくまで断層から想定される最大規模の地震の発生確率なので、それより規模の小さな地震が起きる可能性はあります

日本で地震の無い場所はありません。地震に対する日頃の備えを忘れないようにしましょう。